

# 年頭のご挨拶

社団法人 北海道林産技術普及協会  
会長 高橋 秀樹



皆様 明けましておめでとうございます。

平成20年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。

また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年も当協会は北海道林産試験場の研究内容や成果を広く知らせるべく、ウッディ・エイジの刊行、木の情報館の展示による木材製品のPR、情報交換会などを実行いたしました。また7月恒例、北海道立林産試験場と共催の「木のグランドフェア」では多くのご家族や子供たちの来場があり喜んでいただけました。

さて平成19年度の漢字は「偽」でしたが、正に食品の賞味期限の改ざん、原産地や成分の偽装表示が多発しました。建設業界でも耐震偽装事件が発生し、またマンションの鉄骨本数不足があり、極めつけとして、虚偽のサンプルで耐火の大臣認定を取得し、性能不足商品を買っていた大手建材メーカーが摘発されました。

社会はこの様な不正企業に厳しい制裁を与え、同時に監督官庁の責任を問いました。

結果は建築基準法の強化となり、しかしその審査体制が整わず、新築住宅の確認申請の遅延が発生し、住宅建築着工数が激減したのです。耐震偽装事件は住宅業界と木材・建材業界に大打撃をもたらしたのです。

昨今の原油暴騰によりガソリン・灯油が値上がりし、一般市民も企業も悲鳴があがっています。エネルギーコストからも、地球温暖化対策からも、いよいよバイオマス発電やペレット燃料やエタノール抽出が目立っています。

今、社会が欲しているのは安全で正しい性能を持った商品であり、環境との共生であります。そのための研究、成分分析、開発、検査、保証が出来る機関こそ北海道立林産試験場であると思います。

北海道林産技術普及協会は 上記課題に林産試験場と共に社会貢献すべく活動して参りますので、本年も皆様方には引き続きのご支援ご指導の程、宜しくお願い致します。